

日本プラスチック工業株式会社 本社工場

1. 事業概要

住所	愛知県小牧市 大字東田中字西田100番地1
従業員数	88名(2021年12月現在)
敷地面積	25,438 m ²
事業内容	・プラスチック製品の製造・加工ならびに販売



主要製品

- ・各種硬質塩化ビニル管
- ・下水道用硬質塩化ビニル管
- ・水道用ポリエチレン二層管
- ・下水道推進工法用硬質塩化ビニル管
- ・硬質塩化ビニル管用継手
- ・ABS、PP、塩ビ等コアパイプ



工場変遷(沿革)

昭和27年11月26日 (1952年)	名古屋市に会社設立。軟質塩化ビニルシート、硬質塩化ビニル管用コンパウンド、各種押出成形品の製造販売を開始。
昭和31年 8月 (1956年)	硬質塩化ビニル管製造販売を開始。
昭和36年11月 (1961年)	本社及び工場を小牧市に移転。
昭和39年 7月 (1964年)	硬質塩化ビニルシートの製造販売を開始。
昭和56年 4月 (1981年)	ポリエチレン管の製造販売を開始。
平成 2年 8月 (1990年)	岐阜県美濃市に工場建設し、シートの生産を本社から移設して生産開始。
平成10年12月 (1998年)	ISO9002審査登録
平成12年10月 (2000年)	ISO14001審査登録
平成14年12月 (2002年)	ISO9001:2000移行認証取得
平成17年 5月 (2005年)	ABS製コアパイプ(巻き芯)の製造販売を開始。
平成17年 7月 (2005年)	ISO14001:2004移行認証取得
平成21年 7月 (2009年)	ISO9001:2008移行認証取得
平成29年 7月 (2017年)	ISO9001、ISO14001:2015移行審査受審・認証取得

2.環境方針

ISO環境方針

日本プラスチック工業株式会社本社、本社工場及び美濃工場は、地球環境保護が人類共通の課題であり、企業の責務であることを認識し、環境保護に万全の配慮と不断の努力を行います。

1) 硬質塩化ビニル管及び2次加工品の製造、ポリエチレン等のプラスチック管の製造、ポリスチレン・ポリプロピレン等のプラスチックシート及びプレートの製造における生産活動で、環境マネジメントシステムを構築し、継続的維持、改善及び汚染の予防を図り、以下の環境保護に努めます。

- ① 廃棄物のリサイクル化及び減量化を図ります。
- ② 設備や機器の高効率化と生産プロセスの改善により電力等の省エネルギーを図ります。
- ③ 技術的、経済的に可能な範囲で騒音レベルの改善及び水質汚濁防止を図ります。

上記の環境目的及び目標を定めると共に、それらの達成のため環境マネジメントプログラムを作成し、その推進に当社で働く全ての人が一丸となって努力します。

2) 環境関連法、条例及び当社が同意したその他の要求事項を順守することに努めます。
3) 地域との調和を図ると共に、地域の環境保護活動に積極的に参加します。

- ・この環境方針は、文書化した情報として維持します。
- ・この環境方針は、教育及び啓蒙活動を行い、当社で働く全ての人に周知徹底を図ります。
- ・この環境方針は、一般の人も入手できます。

2021年2月15日
日本プラスチック工業株式会社
代表取締役社長
川畑 哲也

ISO認証取得状況

平成12年10月 (2000年)	ISO14001(財)日本規格協会に審査登録(JSAE276)
平成15年 9月 (2003年)	ISO14001第1回更新審査実施
平成17年 7月 (2005年)	ISO14001:2004移行認証取得
平成18年 7月 (2006年)	ISO14001第2回更新審査(Q/E複合審査)実施
平成21年 7月 (2009年)	ISO14001第3回更新審査(Q/E複合審査)実施
平成24年 7月 (2012年)	ISO14001第4回更新審査(Q/E複合審査)実施
平成27年 7月 (2015年)	ISO14001第5回更新審査(Q/E複合審査)実施
平成30年 6月 (2018年)	ISO14001第6回更新審査(Q/E複合審査)実施
令和 3年 6月 (2021年)	ISO14001第7回更新審査(Q/E複合審査)実施

日本プラスチック工業株式会社 本社工場

3.サイトデータ(2021年1月～12月の実績)

INPUT

エネルギー使用量	原油換算 KL	2,802
水使用量	万m ³	11.1

OUTPUT

エネルギー起源CO ₂ 排出量	t-CO ₂	5,270
----------------------------	-------------------	-------

排出ガス	主要ばい煙発生施設		—		
	項目	単位	規制内容	規制値	測定値
	SO _x	—	ばい煙発生施設なし		
	NO _x	—			
	ばいじん	—			

排水量	合計量	万m ³	11.1
汚濁負荷量	COD	kg/年	—
	窒素	kg/年	—
	りん	kg/年	—

排水	放流先	項目	単位	末端排水口	
				規制値	測定値
				公共用水域	pH
BOD	mg/l	160	4.5		
COD	mg/l	160	2.6		
窒素	mg/l	—	—		
りん	mg/l	—	—		
六価クロム	mg/l	—	—		
鉛	mg/l	0.1	0.02		
COD総量規制値	kg/日	—	—		
窒素総量規制値	kg/日	—	—		
りん総量規制値	kg/日	—	—		
下水道	pH	最小値, 最大値	—	—	
	BOD	mg/l	—	—	
	COD	mg/l	—	—	
	SS	mg/l	—	—	

廃棄物排出量	t	25
再資源化率	%	98.0

VOC排出量	t	—
--------	---	---

PRTR法対象物質集計結果

単位:kg/年

政令No.	物質名称	排出量				移動量	
		大気	公共用水域	土壌	自社埋立	場外移動	下水道
305	鉛化合物	0	0	0	0	4.6	0

※ 拠点ごとの年間取扱量が1t(特定第1種は0.5t)以上の物質について集計

4.環境トピックス

環境関連活動

- 産業廃棄物削減：廃棄物の分別化、社内PVC・PEパイプスクラップの再利用及び有価物化の推進、廃フレコンの再利用、PPバンド・PEビニール・一般廃棄物の有価物化。
- 省エネ活動：押出設備の吐出量アップ対策、成形金型用保温カバー取付、原料混練ミキサーの保温カバー取付、モータの容量ダウン、省エネ機器・設備の採用、照明(蛍光灯・水銀灯)のLED化、高効率トランスの採用。
- 騒音・振動規制：工場周りの騒音・振動測定(6月、12月)の実施。
- 水質関連：工場排水、井戸水の環境測定(年1回)の実施。
- 教育：緊急事態手順書の確認テスト実施。

5.環境コミュニケーション

地域美化活動

- | | |
|------|------------------|
| 名称 | 工場周辺清掃活動 |
| 内容 | 工場周辺のごみ拾いを行った。 |
| 日付 | 年2回(6/18, 10/28) |
| 参加人数 | 10~20名 |

